

2021年度西日本弁理士クラブ若手会主催 忘年会 開催報告

コロナ禍が続く中、恒例の若手会主催忘年会も今年はオンライン開催となりました。

オンラインならではの強みを活かすべく、クラブ会員・非会員問わず、古今東西あらゆる弁理士の先生方にご参加を募りましたところ、若手19名を含む総勢24名の先生方に参加いただきました。東は名古屋から、西は島根からと、対面イベントでは中々交流する機会の少ない先生方にもお集まりいただきました。

当日は、Spatial Chat（オンラインビデオチャットツール）を利用し、食事配送サービスのNonpiにてご参加の皆様にお食事をご用意いたしました。

忘年会では、運営委員の富士川雄先生の司会のもと、はじめに次期クラブ幹事長の北原宏修先生に開会のご挨拶を頂戴しました。北原先生には、今年一年の当クラブの活動を振り返るコメントをいただき、コロナ禍に振り回されながらも色々取り組んできたことが思い出されました。乾杯後、30分ほどの談笑ののち、恒例の余興を開始いたしました。



余興では、若手会オリジナルの「ドキドキ知財しりとりゲーム」を行いました。4～5人1組のチームに分かれ、しりとり状に5個の単語を選出して、単語に割り振られるポイントを競いました。知財ワード（「特許」など）には高得点が振られる一方で、その知財ワードの中には大幅減点となるドボン（「新規性」「審査」など）が隠されており、1回戦目ではドボンワードを選んだ多くのチームが敢え無くマイナスポイントの海に沈んでいきました。知財ワードか否かは、若手会リーダーの飯田淳也先生の厳正なる審査に基づいて、判定されました。

2回戦目では各チーム慣れてきたのか、「単一性→一事不再理→リーガルテック→クロスライセンス→数値限定」というかなりコアな知財ワードでドボン回避を狙うチームや、「高橋是清→予備補正→引例→インド特許庁→ウルグアイ特許庁」と「国名+特許庁」というある意味脱法行為…もとい裏ワザを使用してポイントを稼ぐチームがみられました。各チーム、白熱した知財ワード選出会議をなさっていて、老若男女問わず交流を深められたのではと感じております。

忘年会の最後には、次期日本弁理士会副会長の高山和也先生に閉会のご挨拶を頂戴しました。忘年会にご参加いただいた皆様、忘年会の開催にあたってご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

若手会では、来期はオンライン、オフラインを交えた様々なイベントを開催する予定です。若手会にても数回のオンラインイベントを経て、オンラインならではの交流の楽しみ方を掴みつつあります。今後も、皆様が楽しく交流できるようなイベントを企画してまいりますので、今後とも若手会の活動にご理解、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

